

りんご果実の日焼けとその対策

果樹試験場

りんご果実に直射日光が当たると、果実が蓄熱し果皮の温度が高くなります。果皮の温度が高くなると果皮の色が白や橙色、褐色に変化することがあり（図1）、これを“りんご果実の日焼け”と呼びます。

夏場の晴れの日には、南中となる時刻より1～2時間遅れて最高気温が高まります。気温が最高となる時、果皮の温度も最高となります（図2）。

近年は、夏場の最高気温が高い日が多くなり（図3）、日焼けの軽減には、果実の蓄熱を回避する必要があります。そのため、日光を遮る必要がありますが、収穫直前の果実の着色には一定の日光が必要となります。高温となる夏場に収穫となる早生品種「シナノリップ」では、日焼けの軽減を図ると同時に、果実の着色を妨げない技術確立のため、現在、果樹試験場ではこの目的が達成できる被覆資材の検討を行っています（図4）。



図1 「シナノリップ」の日焼け
(2018年 果樹試験場)

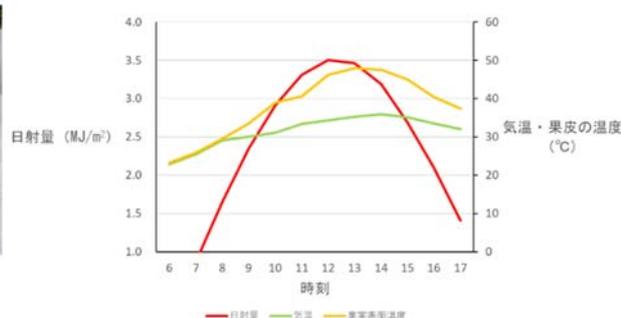


図2 夏場の日射と果皮の温度
(2018年 果樹試験場)

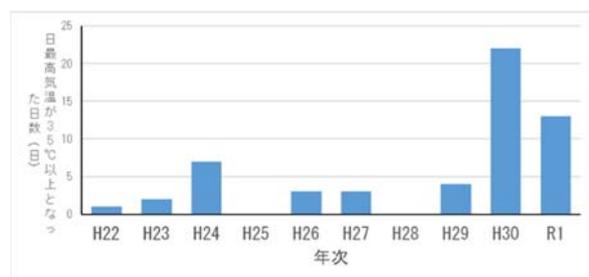


図3 果樹試験場で日最高気温が35℃以上となった日数の推移



図4 遮熱資材の被覆
(2019年 果樹試験場)

担当者	船橋 徹郎	電話番号	026-246-2415
-----	-------	------	--------------